

学内広報

for communication across the UT



特集：

第5回東京大学ホームカミングデイ開催！

平成18年度第1回東京大学総長賞



2006.11.22

No. 1347

卒業生やそのご家族・ご友人をキャンパスにお迎えするイベントであるホームカミングデイが、11月11日(土)、本郷・駒場の両キャンパスで開催されました。当日はあいにくの大雨、時おり雷まで鳴り響く空模様でしたが、悪天候にも負けずに懐かしのキャンパスを訪れてくださった方は、両会場を合わせて約1,900名もいらっしゃいました。当日の様子をいくつかご紹介します。



歓迎式典

式典の幕開けは小宮山総長の挨拶から。来年130周年を迎える東京大学の現在や将来の取組み等についてメッセージがあり、さらに古田卒業生室長(理事・副学長)より、卒業生とのコミュニケーションをより深めていくための取組みについて説明がありました。最後は、恒例となった応援部吹奏楽団の伴奏と応援部のエールにより、「大空と」「ただ一つ」を会場全員で斉唱して盛り上がりました。



130周年
記念
マーク

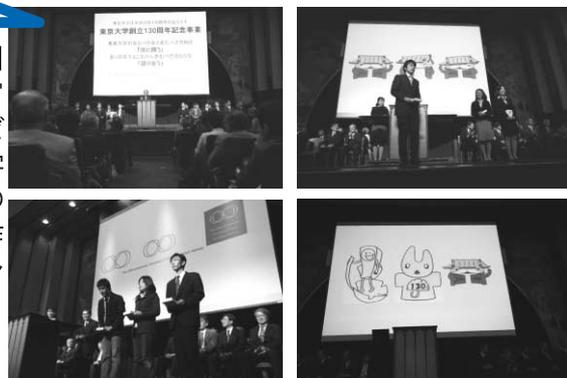


創立130周年記念事業 開始宣言

2007年に東京大学は、創立130周年を迎えます。その130周年記念事業の開始宣言が、歓迎式典の中で行われました。小宮山総長からは、2008年春までに、「学術(知)のプロムナード」などを含む130のイベント等を開催し、一連の活動を通じて東京大学が目指す方向について世に問い、共に語り合う機会にしたいとの事業の趣旨が力強く述べられました。また、シンボルマーク採用作品の発表がなされたほか、学内公募されたシンボルマークとキャラクターの入選作品の表彰も行われました。

※詳しくはこちら

<http://www.130out.pr.utokyo.ac.jp/index.html>



スペシャルフォーラム「世に問う！～日本のイニシアティブ～」 ・21世紀COEパネルセッション

大講堂では、21世紀COEの拠点リーダーでもある、坂村健教授（情報学環）と藤本隆宏教授（経済）が、お互いの専門分野を超えて語り合いました。後半は、来場者からの質問に答える形でのディスカッションフォーラムとなり、会場からは多くの質問が飛び出し、大いに盛り上がりしました。

また、大講堂の4階（階段上階）では、東京大学のCOE全28拠点のパネルセッションが行われました。本学が世界に誇る卓越した研究拠点に関する説明に、多くの来場者が感心したように入っていました。



サッカー教室／サッカー対抗戦

昨年に引き続き、東大OBチームが熱戦を繰り広げました。文京区のサッカーチーム「文京FC」との親善試合やOB戦が開催されたほか、子供向けのサッカー教室も行われました。雨にも負けずグラウンドを走り回る、お元気なOBの姿には脱帽です。



各学部等懇親会・学友会主催「同窓会集まれ！」



夕方からは、出身の学部・大学院にて懇親会等が開催され、卒業生やご家族が、教員や同窓生と旧交を温めました。そのほかに、生協第二食堂では、誰でも参加可能な合同同窓会が開催され、特に、昭和40年卒業の方には、クラス会幹事などを通じて参加を呼びかけたところ、100人以上の参加者が集いました。

春野恵子氏浪曲口演

「ケイコ先生」としてテレビでも活躍されていたので、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。春野恵子さん（本名唐木恵子さん、平成9年教育学部卒）が演じる迫力いっぱいの浪曲は、会場に詰め掛けた多くの老若男女の興味を逸らさない、あっという間の1時間となりました。



駒場 キャンパス



駒場キャンパスでのオープニングセレモニーは、この秋オープンしたばかりのコミュニケーション・プラザで開催されました。木畑洋一教養学部長の挨拶に続き、スタインウェイのグランドピアノの披露演奏が行われ、会場にいっぱいとなった聴衆の方々に魅了しました。その後に行われた「駒場の樹木をめぐる講演会」では梶幹男北海道演習林長による「カエデ学ことはじめ」と題した講演が行われ、こちらも多くの聴衆を集めました。その後の駒場の木々をめぐるイベントは雨のため残念ながら中止となってしまいました。引き続き、シンポジウム「生命のダイナミズムから学ぶー駒場COEの問いー」と研究室訪問が平行して行われました。シンポジウムは駒場の3つのCOEプログラムの紹介を紹介しながら、生命・自己、そして社会を考えていくというもので、内容の濃い、しかしながら楽しいシンポジウムになりました。研究室訪問では研究室の後輩である教員達が先輩を迎えて談笑する姿が見られました。最後のレセプションには(もっと多くの方々に来てほしいとの声もあったもの)大先輩たちから最近卒業された方々まで多くの方のご参加を頂き、盛況のうちに終わりました。

本郷商店会も「おかえりなさい」



今年は、本郷商店会のご協力により、お食事処マップを作成いただき、本郷通り沿いに「歓迎 東京大学ホームカミングデー」という看板も立てていただきました。地域を挙げて卒業生を歓迎しているという気持ちは、きっと来場者にも伝わったことでしょう。

昨年に引き続き、「本郷いちよう芸術祭」「東大落語会寄席」「現役学生によるキャンパスツアー」「懐徳館一般公開」なども大人気。特に懐徳館では、雨にしっかりと濡れた庭園を眺めながら、現役茶道部員のお茶を楽しむ姿が見られました。さらに、昨年も好評だった各種学術展示は、史料編纂所常設展示、総合図書館特別展示「知の職人たち」、総合研究博物館特別展示「東京大学コレクション」が開催され、本学所蔵の貴重なコレクションをご覧いただきました。

来年のホームカミングデーは、平成19年11月10日(土)に開催されます。卒業生の声も取り入れながら、よりよいものにしたいと思います。本年度のホームカミングデーにご協力いただいた各部署の皆様・本部事務の皆様、ありがとうございました。今後とも卒業生との連携について、ご理解とご協力をお願いいたします。

ホームカミングデーの様子は、ホームページからもご覧いただけます。
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/gakuyukai/hcd2006/index.html>

問い合わせ先：総務部渉外グループ：内線21217



平成18年度第1回学生表彰「東京大学総長賞」の授与式が、11月7日（火）17時より、数理科学研究科大講義室（駒場キャンパス）にて開催されました。

授与式に先立って、音楽部管弦楽団（平成14年度第2回受賞団体）による奏楽が行われました。

授与式では、学生表彰選考委員会・神野直彦委員長による結果報告に引き続き、小宮山総長より受賞者への表彰状及び記念品の授与、挨拶が行われました。

表彰状及び記念品の授与の場面では、受賞者のみなさんは総長を前に緊張した面持ちで、それぞれ記念品、表彰状を受けとっていました。

小宮山総長は「いろいろな式典に出ますが、総長賞の授賞式は最も楽しみにしている式典の一つです」「是非、春の学業を対象とした総長賞も受賞していただきたい」と述べるなど、ユーモアを交えながら、受賞者を称えと共に、更なる活躍を期待する旨の挨拶を行いました。

その後、各受賞者（団体含む）によるプレゼンテーションが行われました。まず、人文社会系研究科修士課程2年・馬場幸栄さんが、自身が「アーカイブス」に関する活動に力を入れるようになったきっかけや、アーキビストをめぐる社会状況の現状と課題などを発表しました。続いて、東京大学法律相談所より、法律相談所の歴史や現在の活動について説明がありました。

経済学部4年・國枝明弘さんのプレゼンテーションは落語形式で行われ、活動内容を紹介しながら、その巧みな話術を披露し、会場は笑いに包まれました。また、ボディビル&ウエイトリフティング部は、全日本学生ボディビル選手権で2年連続で個人優勝に輝いている佐々木卓選手が実際にその鍛え上げられた肉体美を披露し、会場からは歓声が上がっていました。

引き続き懇談会が行われ、多くの関係者が参加し、和やかな雰囲気で行われました。終盤には運動会応援部（平成14年度第1回受賞団体）のリードによる「ただ一つ」の斉唱も行われ、大いに盛り上がりました。

学生表彰「東京大学総長賞」は、本学学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「他の学生の範となった」「優れた評価を受けた」「優秀な成績を修めた」などの顕著な功績があった個人又は団体に総長が表彰を行うもので、平成14年度から設けられています。

本年度から、年2回行われる授与のうち、第1回（秋）は学業以外の課外活動等を対象とし、第2回（春）は学業のみを対象として募集が行われることになりました。また、第2回（春）には年間の授与者の中から特に優秀な者に対し、総長大賞が授与される予定です。

今回の募集では、個人8件、団体6件の合計14件の推薦をいただき、学生表彰選考委員会の慎重な審議の結果、個人2件、団体2件の計4件が選出され、授与式が行われました。



表彰状及び記念品の授与を受ける
東京大学法律相談所代表



馬場幸栄さんのプレゼンテーション



國枝明弘さんのプレゼンテーション



ボディビル&ウエイトリフティング部の
プレゼンテーション

受賞者紹介

【個人】



撮影：蔵本淳（東京大学新聞社）

國枝 明弘 経済学部4年

國枝氏は「落語の祖」である安楽庵策伝の出生地である岐阜市とNHKが主催する第3回全日本学生落語選手権・策伝大賞大会において「井の線亭ビリ馬」（いのせんていびりば）の高座名で出場し、見事に優勝し最高賞である「策伝大賞」の荣誉に輝いた。本大会は桂三枝師匠（上方落語協会会長）や立川志の輔師匠を審査委員とし、文化庁、（社）落語協会、（社）落語芸術協会、（社）上方落語協会、岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会の後援を受けるもので、北は北海道から南は沖縄まで全国36大学114名の学生が参加した。これにより文部科学大臣より「賞状」、岐阜市長より「岐阜市長賞」が授与された。

また、同氏は自身の話芸能力を生かし落語ボランティア活動を始め、豊島区・文京区の高齢者施設、新潟県長岡市の仮設住宅、盲学校、緩和ケア病棟などで延べ70回に渡り活動を行い、豊島区社会福祉事業団より感謝状を授与される等、現在も精力的にこの活動を続けている。



馬場 幸栄 人文社会系研究科修士課程2年

馬場氏はアーカイブズが担う社会的役割の重要性とその運営において生じうる多様な問題の危険性に早くから注目し、数多くの大学プロジェクト・企業提携プロジェクトに参加、また、学会・論文・講演・ボランティア活動・国際交流を通して、日本におけるアーカイブズ教育の普及と向上に努めてきた。

固定概念にとらわれることのない明確なビジョン、国内外の機関や人材との交流の機会を自ら開拓してきたコミュニケーション能力と積極性、アーキビストや学生たちのために無償でワークショップやセミナーなどを行ってきたボランティア精神、そして、アーキビストの待遇改善と国税だけに頼らないアーカイブズ運営とを議論してきた経済感覚、これらの資質に加え、その長期的活動が社会に確実な影響を与えてきたことが、高く評価された。

【団体】

東京大学運動会ボディビル&ウェイトリフティング部



運動会ボディビル&ウェイトリフティング部は、今年で創部40周年を迎え、これまで日本学生選手権優勝者5名を輩出するなど、学生界をリードする存在となっている。特に最近の競技成績にはめざましいものがあり、第81回関東学生パワーリフティング選手権での団体優勝を果たしたのは、創部以来、初めてのことである。これは出場選手中12名が各階級で6位以内に入賞というチームワークのたまものであり、強豪の国際武道大を抑えての見事な優勝であった。

また、現在、関東学生ボディビル選手権を団体の部3連覇しており、全日本学生ボディビル選手権においても2年連続で個人優勝に輝いている。これからも更に勢いをつけて、ますますの活躍が期待される。

東京大学法律相談所



東京大学法律相談所は1947年に当時の法学部長である碩学我妻栄先生の了解の下に五月祭で無料法律相談を行ったことに起源を有する学生団体である。以後、継続して毎週大学構内で無料法律相談を行っている他、夏季休業中には弁護士過疎地域を中心に地方へ出張して相談会を実施しており、例年、1年間で百件を超える相談を受けている。また、今年で58回を迎えた五月祭での模擬裁判は、社会で問題となっているテーマを事件形式で取り上げ実際の裁判手続きに即して演ずるものであり、法律や裁判の具体的な手続きについての知識を広めることを目的として行っている。このように様々な活動を通して、法律知識を以って継続的に広く社会に貢献・奉仕している点が高く評価された。

【本件担当】 学生部学生課学生生活チーム 大八木・宮内（内線：22529・25514）

NEWS

秋の紫綬褒章受章

大学院薬学系研究科・長野哲雄教授が本年秋の紫綬褒章を受章いたしました。

長野哲雄 大学院薬学系研究科教授

長野哲雄教授は理学、医学、工学とは異なる「薬学」で行うべき研究について常々深慮し、将来を見据えた研究方針を打ち出し、新たな道を切り開いてきました。その新分野である「分子薬学」を確立した功績が高く評価されました。

今日ほど「分子イメージング」あるいは「バイオイメージング」という言葉が人口に膾炙していない10年以上

前より、長野教授は生命の仕組みを明らかにするためには、生きた状態の細胞・組織や生体において生理活性分子を直接捉え、それらの活性や濃度変化を時空間的に測定することが必要不可欠であると先見していました。この測定には生理活性分子の蛍光顕微鏡による可



視化観察を行える指示薬（蛍光プローブ）の創製が必要であると考え、研究課題の柱にしました。

生体から生理活性分子を捉える蛍光プローブに求められる要件として、「生理活性分子と生理的穏和な条件下で特異的に反応あるいは相互作用して蛍光特性が変化する」ことが挙げられます。蛍光性化合物は19世紀後半に化学合成の報告がありますが、それ以来、現在まで130年以上にわたって蛍光性化合物は基本的に単純なラベル化試薬として使用されてきました。長野教授は、蛍光性化合物をラベル化試薬として用いるのではなく、発光制御機能が与与された化合物を創製しました。すなわち、「光物理化学に基づいた蛍光発光の制御原理の解明」→「有機化学を基盤とした蛍光発光制御原理に基づく蛍光プローブの分子設計・合成」→「薬理学・生物学による蛍光プローブの評価および生体機能解析」→「蛍光プロ

ーブの実用化・市販化」の一連の研究を成し遂げたものであり、有機化学と生物学が融合した新たな学問領域であるChemical Biologyを開拓したものであると同時に、基礎研究を実用研究にまで展開したトランスレーショナルリサーチでもあります。開発したプローブは現在までに28種類あり、このうち12種類のプローブについては市販され、現在、国内外で広く利用されています。これらの研究功績に対し、これまでも日本薬学会賞、上原賞、島津賞、山崎貞一賞、持田記念学術賞、市村学術賞等、数々の受賞に輝いています。

長野教授は研究面のみならず、本学における全学カリキュラム委員会委員長、総長補佐、薬学系研究科副研究科長を歴任し、日本薬学会では理事に就任の後、現在副会頭の要職にあり、学会の発展にも多大な貢献をしています。

(大学院薬学系研究科 小島宏建)

一般ニュース



総務部

東京大学創立130周年記念事業シンボルマークの制定について

東京大学は、平成19年（2007年）4月12日に創立130周年を迎えます。この機会に、東京大学は、多くの方々と、東京大学のあるべき姿と進むべき方向について共に語り合い、大学と社会の新たな関係づくりを目指して積極的に発信すべく、一年あまりにわたって一連の記念事業を行います。この記念事業の実施にあたり、公式シンボルマークを制定いたしました。



130TH

THE UNIVERSITY OF TOKYO

この公式シンボルマークは、「知の生命体」をコンセプトにデザインされています。未来に向かう東京大学の、「新しい知」を発見し続ける力と、「新たな才能」を育み続ける力を、成長・進化を続ける<未来的な、知的な生命体>として表現するとともに、21世紀の、さまざまな学問的、社会的なテーマに積極果敢に取り組む姿勢、つまり専門領域や国境の壁を越えて生み出される<知のダイナミズム>をも象徴しています。

学生部

知の創造的摩擦プロジェクト第3回 交流会「先輩と語る、自分を見つめ る」を開催

10月28日（土）本郷キャンパス御殿下ジムナジウムにおいて、知の創造的摩擦プロジェクト第3回交流会「先輩と語る、自分を見つめる」が開催された。

これは各業界で活躍する本学の卒業生との交流を通して、本学学生のキャリア形成支援を目指す大学主催のイベントである。昨年10月の本郷キャンパスでの第1回、本年6月の駒場キャンパスでの第2回に引き続き開催で、約150名の卒業生と約300名の学部・大学院学生が参加、今回から、卒業生側には40代、50代の経営者も加わり、より厚みを増した議論が展開された。

第一部は、13時から休憩をはさんで3ラウンドのグループディスカッションを中心に、約4時間にわたって議論がくりひろげられた。業界別フリーディスカッションと銘打った第二部は、場所を中央食堂に移して16時半から行われた。小宮山総長も加わって懇親会を兼ねながら約1時間半、なごやかに会話の輪が広がった。



会話の輪

第二部の挨拶のなかで小宮山総長は、持続可能な発展を追求するために、現在、知の構造化が従来以上に求められるところであり、そのためには、集積した知を他者との交流によって深めてゆくことが肝要であるとして、交流会の意義を称え、もって参加してくれた卒業生に謝意を示し、学生を激励された。



総長語る

前2回に引き続き交流会の企画、運営等は、卒業生有志の集い「東京大学三四郎会」と、本学学生サークル「東大ドリムネット」の多大なる協力のもとに行われたものである。今後も交流会にとどまることなく、学生と卒業生がともに主体的に参画する、いわば「東大コミュニティ」として、交流の仕組みが熟成してゆくことが期待される。



会話に熱



総務部・施設部

本部棟1階フロアがリニューアルしました！

本郷キャンパス・龍岡門横の本部棟1階フロアがこのたびリニューアルされました。受付や待合スペースを一新したほか、壁面をガラス張りとするなど、開放感のあるフロアとなりました。



明るく開放的になった1階フロア

また、博物館などで使用されているものと同様の機能を持つ展示ケース（透明度の高いガラスを使用、高気密で温度・湿度等の調節が可能）や、展示パネル、65インチのプラズマディスプレイ（今年中に納入予定）の設置により、様々な展示が企画できるようになりました。

総務部広報課では、展示ケースに展示したい本学に関連する貴重な物品、写真などの掲示物、プラズマディスプレイで放映したい映像などを、学内から広く募集します。展示したい物品等がございましたら、ぜひ総務部広報課広報企画チームまでご連絡ください。

<連絡先>

総務部広報課広報企画チーム 内線22031、82032

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

現在の展示の概要は以下の通りです。

●展示ケース内：恩賜の銀時計



1913（大正2）年、工科大学造兵学科の優等卒業生であった阿久津国造氏が下賜された銀時計<東京大学史料室：所蔵>。

1899（明治32）～1918（大正7）年、東京帝国大学の卒業式に天皇（代理を含む）が臨幸し、優等卒業生に銀時計を下賜した。選定は大学評議会で行われ、その基準は卒業時の成績点数を基礎とし、人格的にも優れた者であるとした。東京帝国大学優等卒業生に下賜された銀時計の総数は、323個（法88・経9・医42・薬13・工77・文50・理20・農24）である。

本時計は、1996年8月、大正2年工科大学造兵学科優等卒業生故阿久津国造氏のご遺族から寄贈していただいたもの。

○展示パネル

写真集『東京帝国大学』より

明治33年（1900年）頃のキャンパス風景



写真集『東京帝国大学』は、明治33年4月のパリ万国博覧会に出陳した、小川一眞（おがわ かずまさ）の撮影・編集による大判の写真集。東京帝国大学の舎・設備・総長・教員の写真を掲載している。同時期の帝国大学キャンパスの様子を知る絶好の史料である。小川一眞は明治から昭和にかけての著名な写真家で、皇族・古社寺の秘宝・名画を多く撮影した。

今回の展示は、「赤門」「工科大学」「法文科大学」「大学中庭泉水の景（三四郎池）」「外国教師館」の5点を接写し、パネル化したもの。

財務部
ローソン龍岡門店がオープンしました！

《安田講堂店に続くオープン》

11月14日（火）、本郷キャンパスの龍岡門を入ってすぐ右にある山上会館龍岡門別館1階に、24時間営業の「ローソン東京大学龍岡門店」がオープンしました。

本郷キャンパス内へのコンビニの設置は、学生・教職員等の福利厚生の実現を図ることを目的として平成16年法人化直後から構想されました。同年10月には公募によって出店業者の選定が行われ、平成17年3月に東大初のコンビニとして「ローソン安田講堂店」がオープンしました。今回オープンした龍岡門店はそれに続くものとなります。なお、本年9月からは医学部附属病院独自の施策として「ローソン東大病院店」も営業しています。



《大学らしさを取り入れたコンビニ》

龍岡門店に入って真っ先に感じるのは広い！ということでしょう。店内にはイートインスペースがあるだけでなく、店の前にもオープンテラスが設置されています。周囲には樹木も多いことから、ちょっとひと息入れたり、授業や研究の合間に友人とおしゃべりしたりするのにぴったりでしょう。そのオープンテラスには、廃棄材と廃プラスチックを混合した資源循環型の素材が使用されています。その他に、大型ウィンドウに光触媒のコーティングをしたガラスを使用したり、オゾン層を破壊しない自然冷媒のひとつであるCO₂冷媒冷蔵ショーケースを使用する等、店づくり全体に本学の研究成果を取り入れた、大学ならではのコンビニというコンセプトになっています。

《本郷キャンパスのコンビニ事情》

これでキャンパス内のコンビニ店舗は3つになりました。さらに、12月下旬にはバス通りをはさんで龍岡門店の斜め向かいとなる薬学系総合研究棟にもエントランスを活用したローソンのミニ店舗がオープンする予定です。

す。こちらは、薬学部の学生・教職員の利用が中心になるとは思われますが、東大のコンビニも4店目、ますます便利になりそうです。

ローソン東京大学龍岡門店 店長より

「おかげさまで安田講堂店・東大病院店に続き、龍岡門店をオープンしました。更に薬学系総合研究棟に新店を予定しており、合計4店舗出店致します。常に新しい挑戦を続け、東京大学の店舗1店1店が学生や教職員の皆様に愛され支持される「キャンパスのほっとステーション」になるよう努力して参ります。」

環境安全本部
記者発表「東京大学職員の中皮腫発症について」

本学は11月17日、東京大学職員の中皮腫発症について記者発表を行った。以下に全文を掲載する。

報道発表資料

平成18年11月17日
 東京大学

東京大学職員の中皮腫発症について

本学施設系技術職員（男性、50代）が中皮腫と診断されましたので、ご報告いたします。

1. 本職員は本年4月に検査入院後、要観察として検査を行っていましたが、組織検査の結果、11月初めに中皮腫と診断されました。11月上旬手術を行い無事終了し、現在順調に回復中です。なお、本学は本人の速やかな職場復帰を支援する所存です。
2. 本職員は東京大学に採用されて以来、施設整備における計画、設計、工事監理、維持管理業務を担当してきており、昭和46年度からアスベスト吹き付けおよび撤去等を含む工事の施工立会いを行ってきました。なお、アスベスト関連工事に従事した期間は昭和46年度から昭和51年度と推定されます。
3. 本学では以前から国の通知に基づいたアスベスト対策を行ってききましたが、本年3月にはさらに、アスベスト使用状況の把握、環境管理や作業管理、過去に在籍した学生や教職員を含めて学生・教職員の健

健康管理等について詳細な対応を定めた「東京大学石綿対策ガイドライン」を作成し、アスベスト濃度測定、安全衛生教育、相談窓口の設置等を実施しました。

このことについては学内で説明会を行うとともにホームページに掲載し、学内外に公表しました。

(http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/b02_10_j.html)

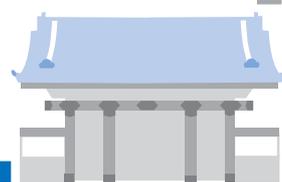
また、学内のアスベスト飛散の恐れのある建物については飛散防止対策工事を実施済みであり、加えて、当該建物について空気中のアスベスト濃度測定を実施、アスベスト飛散がないことを確認しております。

4. 本学でアスベスト関連工事に従事したことのある在職職員及び他機関に異動、または退職した職員については、リストアップ及び追跡調査を行い、「東京大学石綿対策ガイドライン」に従って特殊健康診断や保健指導を行います。

本学から他機関に異動または退職した職員の方で新聞報道等をご覧になり健康診断等をご希望の方は是非ご連絡をお願いします。

相談窓口：環境安全本部 担当：河原、山本
(電話) 03-5841-1052
(ファックス) 03-5841-1053

部局 ニュース



空間情報科学研究センター

年次シンポジウム～CSISDAYS2006
～盛会のうちに閉幕



10月4日(水)、5日(木)の2日間に渡り、本学柏キャンパス総合研究棟6階大会議室にて、本センターの年次シンポジウム～CSISDAYS2006～が開催された。第9回目となる今回は、今年度4月より本センターが全国共同利用施設化されたことを祝して、記念式典と祝賀会を行ったほか、本センター教員の研究活動紹介や、招待講演、空間情報科学分野の研究者による全国共同研究利用発表大会が行われた。来場者は2日間で220名を越える盛会であった。

全国共同利用記念式典では、本学 小宮山宏総長、文部科学省 藤木完治審議官、財団法人地方自治研究機構 石原信雄理事長、地理情報システム学会 村山祐司会長からの祝辞を頂戴した。その後、国立情報学研究所 坂内正夫所長より、「新たな教育・研究の基盤 サイバーサイエンスインフラストラクチャの構築」というタイトルで記念講演をいただいた。

招待講演では、まず国立民族学博物館 文化資源研究センターの久保正敏教授が、「民族情報学と文化資源の時空間的処理」のタイトルで、民族学という、いわば人文社会科学分野における情報処理の方法と、その課題を説明された。つぎに、株式会社ナビタイムジャパン 大西啓介代表取締役社長が、「ユニバーサルな歩行者ナビゲーションの実現までの道程と今後の展開」というタイトルで、同社がTVや山手線内のコマーシャルなどで有名になったこれまでの軌跡と、その発展を支えた技術に関する講演をいただいた。



招待講演に熱心に聞き入る参加者

全国共同研究利用発表大会では、55件の研究発表があった。1件につき5分間の研究概要の口頭発表を行なった後、ポスターセッションが設けられた。発表者は大学関係者のみならず、官公庁や民間企業の研究者も含まれ、産官学で展開されている最新の研究動向を組織と専門分野の枠を超えて俯瞰することのできる有意義な発表大会となった。



全国共同利用研究発表大会でのポスター発表

シンポジウムの最後には、柴崎亮介センター長より、今後も本センターが国内外の空間情報科学における研究をリードし、その実用的普及に向けた取り組みに邁進していく決意表明をもって閉会した。



全国共同利用記念祝賀会にて

大学院新領域創成科学研究科
柏キャンパスに「さつき」の植樹
部局

柏地区の学生・教職員に加え、一般市民約30名の皆さんのご参加を得て、柏キャンパスへの「さつき」の植樹が行われた。

植樹はキャンパスの環境整備の一環として新領域創成科学研究科が企画したもので、基盤科学、生命科学の両研究棟と柏図書館の間の駐車場付近に、10月16日（月）の環境整備の日には柏地区の学生・教職員によって約240本、10月28日（土）には柏キャンパスの一般公開のイベントのひとつとして研究科の呼びかけにこたえた市民の皆さんにより約160本の植樹が行われた。

一般公開当日は秋晴れの穏やかな天候に恵まれ、この企画を担当した近山新領域創成科学研究科教授の挨拶につづき、植木職人の指導のもと、軍手、スコップを手にした一般市民の皆さん約30名に、植樹をしていただいた。植樹に積極的なお子様も多く参加され、参加された方々から、これから柏キャンパスにより親しみを持つとの声も聞かれる中、好評のうちに完了した。

なお、この植樹に参加された一般市民の方々の氏名（掲載についてご了解をいただいた方のみ）を、感謝の意を込めて新領域創成科学研究科のホームページ（<http://www.k.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載している。



植樹手順の説明を聞く参加者



子供たちも積極的に植樹

生産技術研究所

平成18年度外国人研究者・留学生との懇談会開催

部局

10月26日(木)の夕刻16時半から、駒場IIキャンパスのユニバーシティ広場において、生産技術研究所の外国人研究者・留学生との懇談会が開催された。この催しは、生産技術研究所の外国人研究者・留学生及び教職員の相互理解と文化交流を深めることを目的として、昭和59年から毎年開催されている。

今年度も、昨年度に引き続き「屋台」で各国の食事を提供する形式で行われ、参加者はボランティア120名を含めて440名にのぼり、大盛況だった。

懇談会には10チーム(イタリア、韓国、スウェーデン、スリランカ、台湾、中国、日本2チーム、ベトナム、ロシア)が出店し、各チームがそれぞれの国の伝統料理を提供した。これだけ多くの国の料理を一度に食べられることはめったになく、大変貴重な機会である。どの屋台も大変好評で、長蛇の列ができ、参加者は各国の料理を食べ比べ、余興を楽しみながら、大いに文化の交流をはかることができた。また、今年度の企画として、最もおいしかった料理への投票が行われ、有効票数221票のうち49票を獲得したスウェーデンチームが見事1位に輝いた。

最後に、出店してくださったボランティアの皆さんやお手伝いいただいた皆さんには、各屋台の企画、当日の料理、後片付けなど大変お世話になりました。また事務職員の皆さんには、懇談会前日までの企画、食材等の準備から、当日の運営、後片付けまで、大変な作業をこなしていただき、感謝しています。



『臭さ』で有名なシュールストレミングスの缶を開けるスウェーデンチーム



焼き餃子と水餃子を提供する中国屋台

宇宙線研究所

附属神岡宇宙素粒子研究施設にて、地下観測施設の消防総合訓練を実施

部局

10月27日(金)10時から、岐阜県飛騨市の宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設地下観測施設において、神岡消防署の講師の指導のもと約40名が参加し、消防総合訓練を実施しました。

当日は、神岡鉱山内で従事している東北大学、神岡鉱業(株)、東京大学合同で、東北大学の施設から火災が発生したものと想定し、三者が連絡を取り合いながら初期対応、避難訓練を行いました。

その後、坑内入口において、消火器を使用した消火訓練を行い、講師から講評および指導を受けました。

今回の訓練での反省点・改善点を、今後の対策として活かし、防災体制・防災意識の充実を図って行きたいと思っております。



ホワイトボードでの避難状況の確認



坑内入口での消火訓練



実験コーナーで楽しむ子供たち

柏キャンパスリエゾン室

柏キャンパス一般公開開催

部局

10月27日（金）、28日（土）の両日にわたり柏キャンパス（大学院新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、人工物工学研究センター、空間情報科学研究センター、高温プラズマ研究センター、気候システム研究センター、環境安全研究センター柏支所・柏図書館）及び柏Ⅱキャンパス（生涯スポーツ健康科学研究センター）において、一般公開が開催された。

この一般公開は、地域・社会との連携・交流や知的啓発を目指して、柏キャンパスへ移転した当初から実施されてきたもので7年目になり、昨年からはじめた柏の葉キャンパス駅からの送迎バスも好評であった。

公開内容は、キャンパスとして特別講演会を柏図書館で開催したのを始め、各部局とも、日頃の研究成果の紹介、実験コーナー、入門講座等それぞれ特色ある催しが行われ、特に、物性研究所で行われた「ガイドツアー」（スタッフによる見どころ案内）は、毎回、多数の参加者で好評であった。



ガイドツアーで実験室に向かう来場者

また、来場者はキャンパスの広さ、建物の斬新さや先端研究についての丁寧な説明や展示、実験体験等に感心され、首都圏新都市鉄道(株)（つくばエクスプレス）をはじめ、柏市、流山市など地域の方々の協力による宣伝効果もあり2日間を通して約4,500名の方々が訪れ、地域に開かれたキャンパスの雰囲気が感じられた。

生産技術研究所

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構が発足 記念講演会が開催される

部局

ナノ技術、量子科学、ITに立脚したイノベーション創出と人材育成を目的とした「ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構」が10月17日（火）に設置され、機構長として荒川泰彦先端科学技術研究センター教授が指名された。10月30日（月）には、生産技術研究所コンベンションホールにおいて発足記念講演会が開催された。これにより、部局の枠を越えて国内外の研究機関と強い連携を図り、ナノ量子情報エレクトロニクス分野の世界的拠点を目指す本機構の活動が本格的にスタートした。

本機構は科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」事業として採択された「ナノ量子情報エレクトロニクス連携研究拠点」プロジェクト（総括責任者小宮山宏総長）の中核研究組織ともなり、シャープ、NEC、日立製作所、富士通研究所の4協働企業が東大企業ラボをそれぞれ設ける。

研究開発目標としてはナノデバイスをベースに情報通信ネットワークのイノベーションを図り、さらにはより高度な量子暗号通信や飛躍的計算量が期待できる量子コンピュータの実証研究まで行う。人材育成ではこの分野を俯瞰する人材を育てることに重点目標を据えている。

講演会は、岡村定矩理事（副学長）の開会の辞に始まり、小宮山総長の挨拶のあと、小田公彦文部科学省科学技術・学術政策局長の来賓挨拶、江崎玲於奈茨城県科学技術振興財団理事長、柘植綾夫総合科学技術会議議員の特別講演をそれぞれ賜った。江崎理事長はナノ半導体の開拓と量子情報の歩みについて、柘植議員は国創りに結実する科学技術創造を目指してイノベーション創出能力強化と人材育成について、幅広くかつ深い見識を示されるとともに、本機構への期待の言葉もいただいた。



発足記念講演会で挨拶する小宮山宏総長

さらに、荒川機構長および太田賢司シャープ代表取締役専務、國尾武光日本電気執行役員、長我部信行日立製作所基礎研究所長、村野和雄富士通研究所代表取締役社長により研究開発の取り組みについて講演があり、最後は西尾茂文副学長の閉会の辞で締めくくった。

講演会には、会場からあふれる300名近い聴衆が参加し、機構発足への期待と今後の責任の大きさを痛感した。なお、講演会に先立ち小宮山総長以下関係者19名が記者会見に臨んだ。



人があふれるほどの盛況を見せた会場



記者団の質問に答える荒川泰彦機構長

分子細胞生物学研究所

動物慰霊祭



第9回「東京大学分子細胞生物学研究所実験動物慰霊祭」は10月31日（火）11時より、農学生命科学研究科附属家畜病院奥の動物慰霊碑前において執り行われた。当日は秋晴れの空の下127名の参列者があり、宮島所長の挨拶、内藤動物実験委員長からの一年間の動物実験概要の報告、引き続き教職員・学生等参列者による焼香がしめやかにおこなわれた。

分生研では研究所本館地下のSPFマウス実験施設及びウサギ飼育室、本館玄関前の新動物舎、そして生命科学総合研究棟地下の実験動物施設を利用して、多くの教職員・学生等が遺伝子改変マウスの作製及びその解析、抗がん剤の評価、神経系や造血系の初代培養細胞の分離、タンパク質の精製、抗体の作製などの目的で実験動物を使用している。その数は過去一年間にマウス約16,500匹、ラット58匹、ウサギ222羽にも上り、これらの動物実験で得られた新しい知見は学会や学術論文に発表され、それぞれの専門分野において高く評価されている。



小さな動物たちに感謝をこめて合掌

ここに分生研の研究活動のために尊い命を捧げてくれた動物たちの御霊に感謝と追悼の意を表します。

分生研における動物実験は今後ますます盛んに行われるようになるものと思われませんが、「動物の愛護及び管理に関する法律」（平成17年改正）、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（平成18年）を遵守し、動物実験等に関する基本理念である3R（Replacement, Reduction, Refinement）を尊重して、必要最小限の動物を用いて最大限の研究成果が挙げられるよう、関係する皆様方のお一層の努力をお願いしたいと思います。

大学院医学系研究科・医学部

医学部解剖体慰霊祭が行われる

11月1日（水）14時から、台東区谷中の天王寺において平成18年度医学部解剖体慰霊祭（解剖体数132体）が、ご遺族約180名、医学部関係教職員約40名及びこの春教養学部より進学し、初めて解剖実習に臨んだ医学科3年の学生約110名の合計約330名参列のもとに執り行われた。

本慰霊祭は、ご遺体を医学教育と医学の進歩発展のために捧げられた方々の御霊に感謝し、お慰めするため、ご遺族をはじめご縁故深い方々のご臨席を得て毎年実施されているものである。

住職以下7名の僧侶による読経が境内に流れた後、廣川学部長による祭文の朗読、焼香が行われ、ご遺族代表、教職員総代、来賓代表の焼香と続いた。学生代表として、医学科3年の山崎康太郎さんの焼香に続き、参列者全員が焼香を行った。

本堂における行事を終えた後、千人塚において僧侶による読経が行われ、隣接する医学部納骨堂での焼香を行い散会した。



解剖体慰霊祭にて祭文を朗読する廣川医学部長

大学院教育学研究科・教育学部

附属中等教育学校で海洋研究所の特別講義「ウナギ大回遊の謎」を行う

教育学部附属中等教育学校において、本学海洋研究所の塚本勝巳教授による講義「ウナギ大回遊の謎」が11月8日（水）に行なわれた。約80名の生徒、保護者、教員が熱心に聴講した。



講義の様子

世界中に温帯で6種類、熱帯で12種類のウナギがある。これらのDNAを調べると、ボルネオ島近くの海から川へ上がったのが最初のウナギと考えられるようだ。約1億年前のことらしい。この海水魚を起源として、海流に乗ってヨーロッパやアフリカ、東アジアへ移っていき、現在のような生息分布となった。

有名なアリストテレスも「ウナギは泥の中から自然発生する」と記述するなど、ウナギの生態は長い間、謎に包まれていた。ようやく1920年頃に北大西洋のサルガッソー海付近でヨーロッパウナギは産卵することをヨハネス・シュミットが初めてつきとめた。

日本では約30年前から調査を開始した。黒潮に乗ってウナギは日本沿岸に来る。そこで、沖縄、台湾、フィリピンと調査海域を徐々に南下しながら、ウナギの幼魚（プレプトセファレス）を探した。

最近の調査から「夏の新月の日にマリアナ沖の海山で産卵する」という仮説を立てた。その仮説を裏付けるために調査をすると、昨年、新月の日の直後に集中して、卵や生後2日目のプレプトセファレスを発見することができた。採取した場所と海流の速さから東経142°、北緯15°付近の西マリアナ海嶺にある3つの海山が産卵場所であろうということまで突き止めた。

今後の課題としては、ウナギの産卵行動、回遊しているときの生態などを調べることがあげられるという。講義は心理学や古文などの内容にも話が及び、海洋研究はいろいろな学問と関連があることが紹介された。単に専門的な知識だけでなく幅広い知識が必要なこと、さらに仮説を立ててそれを実証していく楽しさと苦労などは生

徒たちにも通じたようだ。塚本教授は常に具体例を出しながら説明されたので、特別講義はとてもわかりやすい素晴らしいものであった。



生徒の質問に答える塚本教授

医科学研究所
動物慰霊祭行われる

平成18年度の医科学研究所における動物慰霊祭が、11月9日（木）11時から、同研究所敷地内の動物慰霊碑前において執り行われた。同研究所では、医科学の発展のため貴重な知見を与えてくれた数多くの諸動物達の霊を慰めるため毎年実施されている。

当日は、秋晴れの空の下、山本雅所長から慰霊の言葉が述べられ、甲斐知恵子実験動物研究施設長から、1年間の動物実験についての概要報告があり、引き続いて、研究者を中心に約250名の教職員・大学院生等が参列し、尊い動物の御霊に思いをいたし、献花がしめやかに行われ、滞りなく終了した。



動物慰霊碑前で慰霊の言葉を述べる山本所長



動物慰霊碑前で献花する教職員・学生

地震研究所
新棟披露記念式典を挙

地震研究所が創設されたのは、関東大震災から約2年後の1925年11月13日。この日から、ちょうど81年目の2006年11月13日、新築された地震研究所1号館を披露する記念式典が、文部科学省の森口泰孝研究開発局長ら約130名の関係者を迎え、盛大に行われた。

地震研究所の旧本館は、1963年に建設が始まり、数回の増築を経て、1970年に完成した。その後、別館の増築やテレメータ棟の新築はあったが、保有面積は文部科学省が基準とする面積より大幅に少ない状況が続いていた。さらに耐震診断の結果、首都圏で大地震が発生した場合、使用に耐えない程度の大きな被害を受ける可能性が高いことがわかった。

地震研究所という組織の宿命として、首都圏で大地震が発生しても、地震の観測・研究が支障なく継続できることが強く求められており、関係者が耐震補強・新棟建設を要望し続けた結果、2002年に民間の資金・能力を活用するPFI事業による新棟建設が認められた。2006年2月には悲願であった新1号館が旧本館隣に完成し、5月から利用を開始している。



新築された地震研究所1号館（本郷キャンパス）

13日の式典では、大久保修平地震研究所所長の式辞の後、小宮山宏総長、森口局長よりご挨拶を頂き、新しい環境で地震学の先端的な研究をさらに進めていくことへの期待が表明された。また、長坂潤一施設部長より工事概要が報告され、所長より工事関係者の方々に感謝状が贈呈された。

地上7階建、床面積約8千㎡の1号館は、積層ゴムからなる免震装置で地面と絶縁され、大地震でも激しく揺れることはない。また72時間連続運転が可能な非常用発電機、貯水槽等も備えており、首都圏直下の地震が起きても、継続的に防災研究拠点としての機能を維持できる。旧本館も現在、耐震補強を進めており、年度内には文字通り地震に強い地震研究所が完成する。

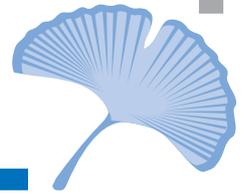


記念式典で挨拶する大久保所長（上）、森口研究開発局長（左）、小宮山総長（右）



コミュニケーションラウンジで開かれた祝賀会では、大竹政和地震予知連絡会会長より祝辞を頂いた

キャンパス ニュース



学生部

キャンパス

東京大学運動会ヨット部クルーザー班、2年ぶり3度目の世界選手権出場を決める

クルーザー班が活動するのは“J/24”という種類の多人数乗りヨット。“クルーザー”と言っても世界的に普及しているレース艇である。学生ヨットの主流である“470”や“スナイブ”などのディンギー（少人数乗りのヨット）とは異なり、大会参加者は、ほとんど社会人チームにより構成されており、中には日本大学・早稲田大学といった例年ディンギーの学生チャンピオンを輩出している強豪校ヨット部OBや、オリンピック出場経験を持つセーラーにより構成されているチームも参加する。そのため入学してからヨットをはじめたクルーで構成される大学生チームが4年間で対等に戦えるようになるのは難しいとさえ言われてきた。

その中で本学ヨット部が、10月14～15日に神奈川県三浦市小網代沖にて行われたJ/24関東選手権に同部艇「仰秀VI」にて出走、優勝を果たした。風速が30knotオーバーという強風コンディションの中、レガッタは2日間で5レースが消化された。関東水域中のJ/24チームが集まるこの関東選手権での優勝は、東大ヨット部がJ/24での活動を始めて以来初の快挙である。



「仰秀」搭乗の東大クルー。6名構成

これで勢いに乗り、11月3～5日に和歌山マリナーシティにて行われたJ/24全日本選手権大会に臨んだ。同大会ではプロのセーラーも多く出場しており、これまでのヨット部の実績も5年前の13位が最高成績であった。しかし「シングル（9位以内）とワールド（世界選手権）出場」の目標を掲げて挑んで見事7位入賞を果たし、2年ぶり3度目の世界選手権出場を決めた。

世界選手権は来年3月にメキシコで開催される。



全日本選手権レース風景。風を読むのが勝負の鍵

ベトナムでのサステナ

福士謙介
サステイナビリティ学
連携研究機構助教授

サステイナビリティ学を世界的に広げる事はサステイナビリティ学連携研究機構の設立準備時より強く意識していました。特に社会や経済の成長が著しいアジア諸国では、よりよい国づくりのためにはサステイナビリティ学の社会への浸透が大切であると思うからです。

その活動の一環として、11月4日と6日にそれぞれベトナムのハノイとホーチミンでサステイナビリティ学に関するシンポジウムを開催してきました。今回のふたつのシンポジウムはベトナムとは大学間交流を長年行ってきた大阪大学サステイナビリティ・サイエンス研究機構（RISS）と共同で企画いたしました。ベトナムでは大阪大学の知名度はとても高いのです。

ハノイでのシンポジウムは循環型社会をテーマにしたもので、ベトナムと日本から資源再利用、都市計画、産業構造、自動車、水などに関連した発表がありました。主にハノイの大学の教員や職員、学生等を中心として、多くの人々が参加しました。発展と環境、個人と社会の利益のバランスに苦慮しつつも、ハノイを魅力的で活力のある町にしたいというベトナム研究者の意気込みと苦労がわかります。東大がベトナム、中国、韓国と行っている4大学フォーラムがちょうどハノイで同時期に開催されており、このハノイにおけるシンポジウムはフォーラムのポストシンポジウムという役割も担っており、フォーラム関係者も多数参加していただきました。ありがとうございました。

ホーチミンでのシンポジウムはバイオマスエネルギーに関するものでした。バイオマスエネルギーは特にアジアにおいて有望なエネルギー源のひとつとして考えられています。IR3SやRISSでもバイオマスエネルギーに関する研究はアジアのエネルギー戦略・脱温暖化社会構築などにおいて重要なものとしてとらえています。ホーチミンでのシンポジウムも大盛況でした。

東南アジアの中でもベトナムは特に勤勉な国民性で知られています。この古い歴史と美しい自然を持つ国がこの勤勉な国民によって、より魅力的な国へと急速に変貌してゆくのをみるのはとても楽しいです。その発展の中でサステイナビリティ学的思考が重要な役割を担うと感じています。



平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1348	学生生活実態調査特集号（予定）		
1349	12月6日（水）	12月13日（水）	12月19日（火）
1350	1月10日（水）	1月17日（水）	1月23日（火）
1351	1月24日（水）	1月31日（水）	2月6日（火）
1352	2月7日（水）	2月14日（水）	2月21日（水）
1353	2月21日（水）	2月28日（水）	3月6日（火）
1354	3月7日（水）	3月14日（水）	3月20日（火）

今回から、バリアフリー支援室アドバイザーの長瀬修特任助教授（経済学研究科）の協力により、本学のバリアフリーに取り組む現場の声を届ける新連載「バリアフリーの現場から」を始めます。国連ではまもなく障害者の権利条約が採択される見通しです。東京大学をバリアフリーにすることは、国際的な努力の一環でもあるのです。多様な声にぜひ、耳を傾けてください。

～人との関わりの中で～バリアフリー支援室

バリアフリー支援室本郷支所 支援コーディネーター 中津真美さん

歴史を感じさせる本郷キャンパス理学部旧1号館に、「バリアフリー支援室本郷支所」があります。

バリアフリー支援室とは、「学内の障害をもつ学生および教職員への支援」を行っている部署です。平成14年10月の準備室発足段階より駒場Ⅱキャンパスに拠点を置いていましたが、ユーザーの学生・教職員の要望を受け、平成18年4月本郷キャンパスにも開設されました。

私は本郷支所で、支援のコーディネート業務を担当しています。本当に、多くの人との出会いがある仕事です。本郷支所の開設以来、たくさんの方がこの部屋を訪れてくれています。障害をもつ学生や教職員はもちろんのこと、支援を行う学生や各部局の支援実施担当の方も、顔を覗かせてくれます。それだけでなく、他の学生や教職員の方々から、バリアフリー支援に関しての様々な反応を寄せていただくこともあり、私は、それを心強く、とても嬉しく感じています。➤



バリアフリー支援室にとって一番大切なものは、“人との関わり”であると思います。

そして、バリアフリー支援室は山小屋みたいな場所、とは、いつも思っていることです。目的地ではないのだけれど、進む途中に、ふらっと立ち寄る場所。たまたま出会う、また去っていく。そういった、人との関わりを繰り返しながら、バリアフリー化は進んでいくのかもしれない。

障害をもつ人と障害のない人が一緒に学習・仕事をしていくには、バリアフリー支援室だけではなく、障害をもつ人自身、他の学生、教員、職員など、関係する全ての人々が出来る範囲での協力をするのが大切なのだと思います。そのことによって初めて、皆にとっての生活しやすい環境が実現してゆくのだと、日々この現場で実感しています。

バリアフリー支援の取り組みについて、まだまだ課題はたくさんありますが、皆さまの温かなご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



認知と対話 教養学部4年 榊原 賢二郎さん

自分が大学で受ける不便を一言で表せば、それは情報であり、特に文字情報である。自分は強度ではないが弱視であり、活字など文字を読むのに困難がある。条件によっては身体の違いから来る不利益はほとんどないが、文字情報が重視される大学などの場では無視することができない。

ちょうど三年前の四月に入学する前年にバリアフリー支援準備室が発足していた。自分の学年は入学時点からこの支援を受けられた最初期で、これより前の各学部・学科に委ねられた支援体制に比べ、理念の明確さ・専門性・全学での統一性などの点で恵まれていたと感じる。入学当初は具体的に何を依頼すればよいか手探りだったが、支援室を通じて、拡大読書機の図書館への設置と利用条件の改善・掲示内容の窓口での閲覧・講義資料や試験問題冊子などに関する先生方への一括した配慮依頼などが、可能となった。支援内容には、他に一見瑣末な内容も多く含まれるが、以上の措置がなければ情報その他の点でより不利を被っただろう。➤

弱視者は多様だとよく言われる。多様性は弱視者に限ったことではないが、支援内容には、大学という場の条件から生じ、支援を必要とする学生の一部で共有された事柄とともに、個別の困難への対処が含まれる。上述の自分に対する支援内容も、情報保障の必要という点は多くの視覚障害学生と共通だが、詳細については、支援室や教務課などとの対話を通じて自分に何が必要か、逆に何が過剰かを把握した上で自分に合うよう変えてきた。これは、支援を受ける自らが対話の場に参加し、支援内容を絶えず見直し、すぐに反映させられたということである。共通に感じられる困難が啓発を通じて認識・理解され対処されることと、相違点が対話にのせられることは実践の上でいずれも重要である。両者が矛盾なく結びつくとは限らないにせよ、学内のバリアフリーの推進にあたって両者は今後も不可欠な要素だといえるだろう。

<東京大学バリアフリー支援室 連絡先> E-mail: spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

本郷支所(理学部旧1号館135号室): TEL 03-5841-1715 FAX 03-5841-1717

駒場支所(先端科学技術研究センター3号館503号室): TEL:03-5452-5067 FAX:03-5452-5068

『東京大学アントレプレナー道場』最終発表審査会報告(10月28日)

学生7千チームが最終選考にエントリー

学生起業支援プログラムとして昨年度より実施している「東京大学アントレプレナー道場（以下「アントレ道場」）」は、10月28日の最終発表・審査会をもって、約半年間にわたる本年度のプログラム（第2期目）を終了しました。本年度のアントレ道場は、4月に参加募集を行い、合計約130名の学生（ポスドク研究者数名を含む）が登録を行いました。5月の道場開始の記念講演会（下写真）を皮切りに、初級コース（5月～7月：「起業・事業化とは何かを考える」）、中級コース（7月～8月：「起業・事業化を構想する」）、上級コース（9月～10月：「起業・事業化プランを策定し社会に問う」と進み、この間、ビジネスサマリーの提出（7月14日締め切り）、ビジネスプラン提出（9月8日締め切り）がなされ、選抜された7チームが上級コースに進出しました。



記念講演会（5月29日）でのパネルディスカッション

左から郷治氏（UTECH：東京大学エッジキャピタル社長）、平賀氏（モルフォ社長）、宮澤氏（シリウステクノロジー社長）、笠原氏（ミクシィ社長）、飯塚氏（ザインエレクトロニクス社長）、各務教授（産学連携本部事業化推進部長）

上級コース進出7チームには、それぞれアントレ道場のユニークな特徴であるメンタリング（学生起業を応援するボランティアな社会人指南役（メンター）によるアドバイス提供）が行われました。ベンチャーキャピタリスト、公認会計士、銀行員、シンクタンク研究員等からなる各チーム2～3名のメンターが学生チームのビジネスプランをレベルアップさせるべく指導していきました。学生も必死に食らいついて頑張りました。これを何回も繰り返して行ないました。

ビジネスプランをプレゼンする「エコ革命チーム」と他参加チームの学生



最優秀1千チーム、優秀2千チームが決定

10月7日（土）・8日（日）には検見川セミナーハウスにおいて合宿が行われ、ビジネスプランを他チームのメンターと学生が徹底的に批評しました。こうして10月28日の最終発表・審査会をむかえました（左下写真参照）。

各チームのプレゼン時間は15分間、審査委員との質疑応答が5分間。各チームは15分間の中に、考えに考え抜いたビジネスプランを濃縮化し思いを込めてプレゼンしました。各チーム様々なパフォーマンスを駆使したり、好印象を得るための秘策を練り込んだりと、趣向を凝らした発表の場となりました（下写真参照）。



プレゼン直前に養殖クルマエビを審査員に賞味してもらう“作戦”に出た「山星水産チーム」と審査員の皆さん
藤田産学連携本部長
（審査委員長）
郷治UTECH社長
山本東京大学TLO社長

審査の結果、最優秀チームとして「ドリーム3D野郎チーム：3次元画像技術を用いた街頭広告事業（代表：櫻井康彰さん、法学部4年）」が選ばれ、正賞UTブックカバーと副賞10万円が授与されました（下写真参照）。また優秀チームとして「山星水産チーム：無投餌底性生物養殖装置“拡龍”を用いたクルマエビ養殖事業（代表：山吉信行さん、生産技術研究所修士1年）」と「エコ革命チーム：コントロラブル生分解性プラスチック事業（代表：代継富実偉さん、工学系研究科修士2年）」が選ばれ、正賞UTブックカバーと副賞5万円が授与されました。

アントレ道場は来年も更にレベルアップした形で開催したいと考えています。

乞うご期待！



藤田審査委員長（産学連携本部長）から最優秀賞を授与される「ドリーム3D野郎チーム」の櫻井さん、須山さん、伊藤さん

お知らせ

◇発表者募集【シーズ実用化提案会】【プロジェクト提案会】
産学連携のパートナーをご希望の方はご連絡ください。
Proprius21 (at-mark) ducr.u-tokyo.ac.jp

連絡先：産学連携本部（研究協力部 産学連携課）

電話：内線22857（外線03-5841-2857）

ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

自転車部競技班

我々自転車部競技班は、夏のインカレおよび全日本学生選手権ロードでの上位入賞を目指して日々練習しています。自転車部競技班として参加する競技には大きく分けて2つの種類があります。1つはサイクルスポーツセンターなどのレースコースで開催されるロードレースと呼ばれるもの。もう1つは全国の競輪場で開催されるトラックレースです。

自転車競技において最も重要なのは、いかに多く自転車に乗りこんできたかであり、高校時代の競技経験が少ない我が部では、推薦により有力選手を揃える他校と比べて大きなハンディを抱えています。しかし、部員はそのハンディを埋めるべく、強い実業団チームや他の強豪校との合同練習を積極的に取り入れ、他にも花月園競輪場をはじめとする各地の競輪場を借りての練習を頻繁に行っています。

そのような練習の結果、今年は部史上初めてインカレロードのシード権2名を含む、出場限度人数の8名がインカレロード出場を果たし、インカレ普及ポイントでは4位を獲得。さらに、高石杯関東地域ロードレースでは、4年生が東京都代表チームとして3位入賞を果たすなど、大きな躍進を遂げた年となりました。



今年は部員が15名に増え、より一層互いを刺激し合い、切磋琢磨することが出来る環境となりました。9月からは代も変わり、新しいチームとして今年を上回る飛躍を成し遂げるべく、自転車部競技班は日々努力を続けています。
(自転車部競技班 小宮山 大輔)

★★DATA★★

創立：1956（昭和31）年
部員数：15人
練習場所：荒川サイクリングロード、皇居周辺、花月園競輪場、大井埠頭、トレーニング体育館など
練習日：火～木・土・日の早朝、火・木の午後
年間予定：5月 東日本学生選手権トラック、U23門田杯
6月 全日本学生選手権ロード
7月 全日本学生選手権チームロード
9月 インカレロード／トラック
活動実績：インカレロードシード権 2名獲得
インカレロード 8名出場
インカレ普及ポイント 4位入賞
JCRC第8戦 2位、4位入賞
部長：矢作 直樹（医学系研究科教授）
監督：三宅 秀一郎（当部OB）
HP：<http://todai-bicycle.com/racing/>

編集：学生部学生課体育チーム（内）22510

ボウリング部

ボウリングというと娯楽と思われる方が多いかもしれませんが、しかし我々ボウリング部はボウリングをスポーツとして楽しんでいます。しかも皆さんも努力次第で、先輩に劣らない活躍ができます。

また、ボウリングは適度な有酸素運動と言われており、健康を維持する上でも非常に効果的で、生涯スポーツでもあり、誰でも無理せず体を動かさせます。今まで本格的にスポーツをやったことがなく、これから何か始めたいという方にボウリングほど適したスポーツはないのではないのでしょうか。もちろん体力に自信のある人も大歓迎です。

料金面においては高いと思われるがちですが、練習料金は週1回の合練は無料、個人練習もセンターの御好意により1レーン1000円以下で1時間投げ放題という破格のゲーム代が実現しています。



本学にはアベレージ185(女子は170)以上の選手に与えられるメジャーボウラーの称号を持つ部員がいますが、ほとんどは大学からボウリングを始めた人々です。スタートラインはみな一緒。練習をし、頭を使った分だけ上達する部活です。

また、運動会とは言っても厳しい上下関係はなくアットホームですし、数多くの試合を通じて他大学とも交流ができます。試合に出て活躍したい、定期的に行うスポーツとして楽しみたい、などなどボウリングをしたいと思った方は是非一緒に楽しみましょう。ご連絡お待ちしております。
(ボウリング部 大上 遥之)

★★DATA★★

創立：1983（昭和58）年
部員数：22人
練習場所：ハタスポーツプラザ（池袋）
練習日：火・木 19:30～21:30
試合のない土 10:30～13:00
年間予定：年間5～7回程度の月例競技会
4～7月 関東学生春季レギュラーリーグ・個人リーグ
8月 夏合宿・関東学生選手権・東日本学生選手権
9～11月 関東学生秋季レギュラーリーグ・個人リーグ・新人リーグ・関東学生新人選手権
12月 全日本大学選手権
2月 全日本学生個人選手権
3月 春合宿
活動実績：2005年秋季リーグ 1部優勝
2006年春季リーグ 1部6位
7月月例競技会 4位（他大とのチーム）
関東学生選手権 オールエビantz第3位
部長：橋本 康弘（工学系研究科講師）
監督：岸本 孝博
HP：<http://babu.jp/~wildturkey/main.shtml>



第19回 東大 トイレット・ペーパー事情

いつもあるのが当たり前で通常は特に感謝の念も起きないが、万が一無いときは大変というものの代表例がトイレット・ペーパーです。もうすっかり昔話ですが、例の「石油ショック」の時の大騒動を思い起こされる方もおられることでしょう。そのトイレット・ペーパー、全学的な調査によれば、約60万ロールが消費されています。

ところで、このトイレット・ペーパーの調達は各部局ごとに行われているのですが、肝心のトイレにちゃんとあるのはどうしてかという、実は清掃会社の方が運んでいるからなのです。部局が購入したトイレット・ペーパーは、各部局所定の場所に納品されますが、そこからトイレまでは、日々の消費量を考えながら清掃会社の方が運んでいるわけです。

UT購買サイトによって、トイレット・ペーパーも各部局ごと少量ずつの発注であっても集約効果が得られる体制は実現したのですが、調達本部では「トイレには必ず清掃会社の方が運んでいる」という事実にあらためて着目しました。

つまり、個々の部局別の発注を当然のこととしていたものを、清掃業者を通じた一括発注に切り換えることで、より完璧な集約効果を期待できるのではないかと考えたわけです。屋内清掃については、すでにご承知のとおり今年度からキャンパスごとに業者の集約を果たしました。その清掃業者に調達をまかせることで、さらに大きな集約効果を引き出そうというわけです。

もちろん、最終的にはどんな紙質のものももちろん環境に配慮したりサイクル紙が前提をいくらかで調達できるか、また学内物流の新たな仕組みづくりを清掃業者そして関係部局との間で今後詰める必要があります。しかし、UT購買サイトを通じて多種多様なトイレット・ペーパーが多数のサプライヤから逐次購入されることと比較すると、年間分の大量購入が見通せる方式への転換は必ず価格低減に結びつくと考えられます。

また、集約することで部局毎の発注手数がなくなるといった効果、また、それが主眼ではないのですが、トイレット・ペーパーの規格の統一といった側面も見逃せません。実際の購入価格を詳細に調べたデータはまだないのですが、例えば1個24円ないし25円といったところのようです。仮に60万ロールという総量に乗じてみますと、全学で年間総額1500万円程度です。

これを小さな金額と見るか大きな金額と見るかは、全て水に流れるだけだと考えるかどうかによるのかもしれませんが。微妙な品物ですが調達改善の新たな試みとご評価頂ければさいわいに存じます。



調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

コミュニケーションセンターだより No.26

■新商品のご紹介

■博物館特別展示関連商品

総合研究博物館で2006年11月3日（金）～2007年1月28日（日）まで特別展示している「東京大学コレクション—写真家上田義彦のマネリスム博物誌」展の関連グッズを、コミュニケーションセンターで販売しております。
ご来館の記念にいかがでしょうか。



■ポストカード

●販売価格：150円（税込）
全12種を取り揃えております。

■ポストカードセット

●販売価格：1,200円（税込）
全12種入っております。
セットはお得ですよ！！



■ポスター

●販売価格：800円（税込）

■ホームカミングデー無事終了しました。



いちよう並木の出店では、「御酒」の有料試飲会を行い、226杯も販売しました。「おいしい！」とのお声を頂戴し、盛況でした。ありがとうございます。

悪天候にもかかわらず、卒業生のみなさまが多くいらっしゃいました。安田講堂、銀杏並木の2箇所に店出し、また赤門横のコミュニケーションセンターにも、約400名のお客様がご来店くださいました。

オリジナルグッズへの意見、東大の歴史など色々とお話してくださるお客様も多く学生スタッフにとっては勉強になった1日となりました。

（担当：コミュニケーションセンター 辻）



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp



第8回

～広報センターより～



願書配布中！

いよいよ今年も、「東京大学入学者募集要項」の交付が始まりました。広報センターでも配布を行っています！

8月上旬から「入学者選抜要項」が、9月上旬から「大学入試センター試験受験案内」が、11月中旬からは「入学者募集要項」の配布が開始され、翌年2月上旬の出願期限まで、私たちは多くの受験生と関わることになります。7月初め配布開始の「外国学校卒業学生特別選考」を含めると、入試関連の流れは7ヶ月間続きますが、広報センターでの一年の中で、特に気の抜けない期間でもあります。

毎年、入試要項の交付時期になると「今年も始まったぞ！」と緊張感が走ります。受験生の質問に、間違っただけの答えをしないよう、また的確なご案内が出来るように慎重な対応を心がけています。

また、ご来館の皆さんとは、なるべくコミュニケーションがとれるよう努めています。しかし、アンケートに寄せられたご要望の中には、ひと言尋ねてくださればと残念に思うこともあります。受験生も十人十色。いま知りたい情報は何かを把握するために、こちらを押したり引いたり、あの手この手で声を掛けています。広報センターでは有意義な時間を過ごしていただきたいと願っているからです。

そのような思いもあり、年が明けて合格発表の日、ここで資料を見たからと【合格】を知らせに来てくれる受験生の吉報は、広報センターでの一年を通じて、何より嬉しい瞬間であります！！

～次回へ続くかもしれない!?～

～入学を希望されている皆さんに～ 下記の資料等を参考に閲覧して頂いています。

- ☆ 東京大学の概要、東京大学案内
- ☆ 各学部の概要、便覧、講義要項
- ☆ 駒場2004、2005（年報）
- ☆ 履修の手引き
- ☆ 入学試験問題（前期日程/後期日程） 実物
- ☆ 外国学校卒業学生特別選考小論文試験問題
- ☆ 東京大学新聞、東大2007
- ☆ 学生生活実態調査の結果（学内広報）

↓ほかの閲覧資料はこちらをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/public02_02_j.html



ワタシのオシゴト

第4回

Rings around the UT

医学部附属病院医事課医療福祉担当

飯塚 寿子さん

お仕事冥利

「病院の治療費について、今ある公費負担の制度を利用して患者様の負担を少しでも軽くすることができるか」、その相談や手続きの案内をしているところが私の仕事場です。患者様の実生活を聞かせてもらいながらいっしょに考えることも多く、居ながらにして「社会」を実感させてもらっています。社会に通じる小さな窓のようなところでしょうか。

ある日大きなビニール袋を手にもった初老の男性は、部屋に入るなりそれで椅子を覆ってから腰掛けました。なかなかマナーをわきまえたホームレスだったのです。かれらの場合、救急車で搬送されてきた場合のみ生活保護の取扱いにできるのですが、今年は都の定住対策で上野公園からずいぶん「お引越し」をしたためか、救急患者は今のところ去年の半数ほどに減っています。

昨日玄関からまっすぐにこの部屋に飛び込んできてくれたのは、心臓の手術をしてICUで2ヵ月も過ごしたIさん。10キロも太れて元気に生活できていると1年ぶりにご夫婦で姿をみせてくれました。私が元気な力をもらい、そして仕事冥利に思う瞬間です。

それにもうひとつ、元気のひみつは、大学1年からやめられないでいるダンスかもしれません。



出身地：

みちのくもみじの
天童市

血液型：O型

自分の性格：

一見強そうだけど
実はけっこう
気が弱い

学生時代から二十年？情熱を燃やしている
ボールルームダンス

次回執筆者のご指名：山崎泰生さん

関係：ミドレンジャー

一言紹介：やさしいけれど、力持ち！金太郎みたいな人！

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

医学教育国際協力研究センター

医学教育に関する講演会のご案内

医学教育国際協力研究センターでは、毎年、医学教育の専門家を客員教授としてお招きしておりますが、今年はカナダのマギル大学よりリンダ・スネル教授 (Linda Snell, MD, FRCPC, FACP) をお迎えしました。スネル先生は内科がご専門で、マギル大学医学教育センターの特別教員というお立場もあり、医学教育に関してユニークな研究活動を展開されています。平成19年4月15日まで滞在され、6回シリーズでご講演いただきます。

つきましては、第1回講演会を下記のとおり行います。参加するだけで、学習者を刺激する授業の進め方が学べるような、魅力的な講義が展開されます。ご来場をお待ちしております。

日時：11月29日(水) 18:00～19:30

場所：医学部総合中央館333号室

(医学図書館3階)

第1回講演テーマ：

State of the Art: Evaluating Teaching in Medical Schools -Why, What and How? -

参加費：無料 (どなたでも参加できます)

なお、第2回以降の講演会の日程は以下のとおりです。

(テーマは別途お知らせ予定)

12月20日(水)、1月24日(水)、2月14日(水)、3月7日(水)、3月28日(水)

各回18:00～19:30を予定しております。

主催：医学教育国際協力研究センター

共催：東京医学会

問い合わせ先：

清川ゆり子・武田裕子

医学教育国際協力研究センター

電話：03-5841-3481

Mail：ykiyokawa-tky@umin.ac.jp

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

東大-産総研連携 ナノテク・製造技術分野講演会 「健康科学を拓くナノテク製造技術」

日本の産業の生産性を維持し、人が高齢になっても健康で幸福な生活を送るためには、高齢者の生活や労働を技術によって支援し、健康に働く環境を作ることが肝要ですが、それを目的とした横断的学問領域が「健康科学メカトロニクス」です。そして、これを実現するためには、ナノ・マイクロシステムを応用したメカトロニクスによる先端技術を利用可能なシステムとして構成する設計方法論の確立が不可欠となります。

本講演会では、この健康科学メカトロニクスについて紹介するとともに、その実現のために必須の要素技術であるナノアセンブリやナノメートル計測技術などのナノテク製造技術やMEMS技術に焦点をあてます。さらに、それら要素技術の統合によって実現される、人と機械システムとのインタフェースとして期待される無線センサネットワーク端末に関して、関連分野の外部講師の招待講演を交えながら紹介し、ナノテク製造技術の社会への貢献について議論を行います。

参加費：無料

主催：東京大学、産業技術総合研究所

共催：JST CREST「先進的統合センシング技術」領域

日時：11月30日(木) 10:20～17:00

場所：安田講堂

10:20～10:40 開会挨拶 産総研 中島尚正理事
東大 岡村定矩理事 (副学長)

第1部 健康科学メカトロニクス (10:40～12:00)

(司会：東大・須賀唯知)

10:40～11:10

健康科学メカトロニクス

東大・人工物工学研究センター 浅間 一

11:10～11:40

韓国生産技術院におけるマイクロナノ製造とQoL向上のための研究開発 (Micro/Nano fabrication and QOL R&D in Kitech)

韓国生産技術院 Young-Moo Heo

11:40~12:00

安全安心を目指す製造技術

産総研・先進製造プロセス研究部門 市川直樹

第2部 ナノテク製造技術 (13:00~15:20)

(司会：産総研・五十嵐一男)

13:00~13:30

ナノ製造へのアプローチ

東大・産業機械工学専攻 石原 直

13:30~13:50

MEMSの集積化

東大・知能機械情報学専攻 下山 勲

13:50~14:10

常温接合技術

東大・精密機械工学専攻 須賀唯知

14:10~14:40

ナノアSEMBリ (Nano assembly)

Zyvx Co.(USA) Von Err II

14:40~15:00

ナノ製造のための計測技術

産総研・計測標準研究部門 松本弘一

15:00~15:20

デジタル製造技術の動向

産総研・デジタルものづくりセンター 服部光郎

第3部 ネットワークマイクロシステム

(15:40~17:10) (司会：産総研・佐々木信也)

15:40~16:00

MEMSの商業化

産総研・先進製造プロセス研究部門 前田龍太郎

16:00~16:30

無線センサノード技術 (Technology for Wireless Sensor Nodes)

Fraunhofer IZM(Germany) Jurgen Wolf

16:30~16:50

安全安心のためのアニマルウォッチセンサ

東大・精密機械工学専攻 伊藤寿浩

16:50~17:00 閉会挨拶

東大・松本洋一郎工学系研究科長

問い合わせ先：

大学院工学系研究科・工学部

TEL:03-5841-6491 (内線26491)

E-mail: secretary.natsuko@su.t.u-tokyo.ac.jp



シンポジウム・講演会

COEプログラム推進室

「知の構造化」ワークショップ

1. 目的

「知の構造化」について、異なる分野の研究者がどのように理解しているかを知り、各分野で使われている技術を共通に使うことができるのか、異なる分野の技術を使うことで新しい展望が開けるのか、知の構造化といふことので分野を越えた普遍的な理解は可能か等を考える。

2. 日程

12月4日(月) 13:30~17:30

3. 場所

理学部1号館(中央棟)小柴ホール

4. スケジュール

I. 13:30~14:00 小宮山宏総長挨拶

II. 14:00~15:20 講演

(1) 14:00~14:20

情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 辻井潤一教授

・論文、データの共有から知識創造プロセスの共有へ

(2) 14:20~14:40

工学系研究科都市工学専攻 岡部篤行教授

・知の構造化ツールとしてのGIS(地理情報システム)

(3) 14:40~15:00

学術統合化プロジェクト(ヒト)関連

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
大久保公策教授

- ・ライフサイエンスにおけるゲノム情報の高度利用に向けた生命知識の構造化
- －構造情報の構造化から機能情報の構造化へ－

(4) 15:00~15:20

学術統合化プロジェクト(地球)関連

生産技術研究所 安岡善文教授

- ・地球観測データの統合的処理
- －データから情報へ－

(15:20~15:40 休憩)

Ⅲ. 15:40~16:10 コメンテーターによるコメント
コメンテーター

情報基盤センター

山口和紀教授

気候システム研究センター

中島映至教授

工学系研究科工学教育推進機構 美馬秀樹特任助教授

理学系研究科物理学専攻

佐藤勝彦教授

理学系研究科生物化学専攻

黒田真也教授

Ⅳ. 16:10~17:30 参加者全員でのディスカッション
テーマ

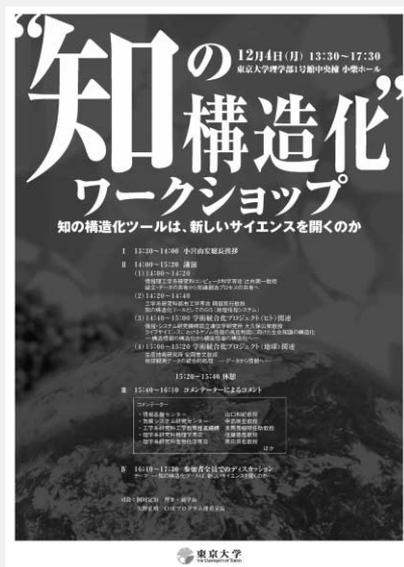
「知の構造化ツールは、新しいサイエンスを開くのか」

司会:岡村定矩 理事(副学長)

矢野正晴 COEプログラム推進室長

連絡先:COEプログラム推進室

TEL:03-5841-1055(内線21055)



シンポジウム・講演会

学術統合化プロジェクト(ヒト)

ヒトセミナー(第21回) 音楽としての音声

学術統合化プロジェクト(ヒト)では、ヒト学の構築に向け、ヒトに関する研究のネットワークを作ること、ヒトに関する知識を共有し発信することを目的として、「ヒトセミナー」を開催している。今回はその21回目。

【タイトル】

「音楽としての音声

～構造的不変性に基づく人間の音認知～」

【講演者】新領域 基盤情報学専攻 峯松信明 助教授

【日時】12月8日(金) 16:30~18:30

【場所】柏キャンパス新領域基盤棟基盤情報講義室2D8

遠隔講義システムにより以下にて聴講可能です。

・本郷キャンパス工学部2号館10F新領域輪講室101B1

・駒場キャンパス情報教育棟4F遠隔講義室

【概要】

「母親と父親」という、音声の個性に関して言えば非常に偏った音声提示を通して、幼児は誰の声でも処理できる方法論を獲得する。一方、音声科学・工学では、数千・万の話者の音声を集めることで多様性問題を解決してきた。両者の本質的な差異はどこにあるのか。

今回は、音声に観測される構造的な不変項を数学的に導出し、幾つかの実験結果、更には、種々の言語障害/認知障害の症例を通して、そして、脳科学、進化人類学などにおける種々の知見を考慮する形でヒトの音認知について考察し、本来あるべき音声情報処理の姿を模索する。

【ヒトセミナーとは】

認知科学、実験経済学、情報生命科学、神経工学、電気生理学等、ヒトにかかわる研究を行っている主として大学院生、研究者に、自身の研究および研究分野の現状について話題提供してもらい、参加者と議論している。特に、神経、認知、学習、社会的知能等、ヒトの知性に関わる研究に焦点を当てている。

本学大学院生向けの教育サービスですが、研究の現場に触れてみたい学部学生の聴講を歓迎します。

(参加希望者は、当日直接会場にお越し下さい。)

【URL】<http://www.ws100h.net/human/>

【問い合わせ先】human@ws100h.net

お知らせ

お知らせ

医学部附属病院

卒業アルバムにみる東京大学医学部と東大病院のあゆみ 第I部 明治初期から関東大震災まで (写真展開催)

11月6日(月)～12月4日(月)までの間、中央診療棟2の1階及び地下1階廊下にて、医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業委員会の主催により、「卒業アルバムにみる 東京大学医学部と東大病院のあゆみ 第I部 明治初期から関東大震災まで」(写真展)を開催して、医学部と附属病院の貴重な歴史的写真の展示を行っておりますのでお知らせします。



写真展会場の様子

写真展の開催にあたって (病院長挨拶)

東京大学医学部と附属病院の創立は、安政5年(1858年)に神田お玉ヶ池に設置された種痘所にさかのぼります。種痘所はその後幕府の西洋医学所となり、わが国における近代医学導入の窓口となりました。明治維新後は幕府から新政府へ移管され、大学東校、東京医学校などと名称を変え、明治10年(1877年)に東京大学医学部となりました。まさに東京大学医学部と東大病院は日本の近代化とともに歩んできたと言えます。

本学の医学図書館には、明治36年以來の卒業記念アルバムが保存されています。欠損するアルバムもあり、また写真に残された世界も東京大学医学部と東大病院の一面に過ぎませんが、若い医学生に眼に映った当時の光景は、現在の医療と医学教育にたずさわる者すべてにとって無縁ではありません。自らのルーツを知るだけでなく、次の時代の医療、教育、病院運営を考える上で貴重なヒントを与えてくれます。また、本郷キャンパスを舞台とした文学や歴史的な事件を思うとき、さまざまな想像力を

かきたてられます。

展示会では明治初期から関東大震災までを第一部、震災後復興から太平洋戦争、戦後復興、大学紛争、病院再開までを第二部としてご紹介いたします。展示写真から時代と世相の変化も感じとっていただければ幸いです。

病院長 永井 良三



お知らせ

学生部

平成19年度入学者募集要項配付

平成19年度の本学の入学者募集要項が決定し、11月16日(木)から入学志願者に交付されている。

募集人員、試験期日、試験場、合格発表日などは次のとおりである。

募集人員

	募集人員(人)	前期日程(人)	後期日程(人)
文科一類	415	373	42
文科二類	365	327	38
文科三類	485	432	53
理科一類	1,147	1,025	122
理科二類	551	492	59
理科三類	90	80	10
計	3,053	2,729	324

出願期間

平成19年1月29日（月）～平成19年2月6日（火）まで

試験期日

前期日程 平成19年2月25日（日）・26日（月）・27日（火）

後期日程 平成19年3月13日（火）・14日（水）

試験場

前期日程

科 類	第2次学力試験場
文科一類	東京大学 教養学部
文科二類	
文科三類	
理科一類	東京大学 法・文・経済・教育・薬 医・理・工・農の各学部
理科二類	
理科三類	

後期日程

科 類	第2次学力試験場
文科一類	東京大学 法学部
文科三類	
理科二類	
理科三類	
文科二類	東京大学 経済学部
理科一類	東京大学 工学部

合格者発表

○第1段階選抜合格者発表

前期日程

合格者発表は、平成19年2月13日（火）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示する。

後期日程

合格者発表は、平成19年3月10日（土）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の大学入試センター試験「試験場コード」及び「受験番号」を掲示するとともに、電子郵便（レタックス）により合格者には「合格通知書」を、また、不合格者には「不合格通知書」を送付する。

○合格者発表

前期日程

合格者発表は、平成19年3月10日（土）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

後期日程

合格者発表は、平成19年3月21日（水）13時頃、本郷地区キャンパスに合格者の第2次学力試験受験番号を掲示するとともに、合格者には電子郵便（レタックス）により「合格通知書」を送付する。

募集要項交付場所

「本郷地区」

正門、赤門、広報センター（龍岡門）、コミュニケーションセンター（赤門脇）、東大生協（安田講堂売店、書籍部）

「弥生地区」

農学部正門

「駒場地区」

教養学部正門、
コミュニケーション・プラザ北館1階生協購買部

※ 東京大学ホームページからも請求できる。

テレホンサービス

募集要項の請求方法（郵送）、出願状況（出願者数及び倍率）並びに追加合格の有無等について、テレホンサービス（電話番号：03-3818-9900）を行う。

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
18.10.15	松本 潔	辞 職（東京大学大学院情報理工学系研究科科学技術振興特任教員）	大学院情報理工学系研究科助教授
（採 用）			
18.10.16	SIMON-OIKAWA MARIANNE	大学院人文社会系研究科助教授	
18.11.1	佐竹 真幸	大学院理学系研究科助教授	
18.11.1	浅見 忠男	大学院農学生命科学研究科教授	理化学研究所中央研究所辻本細胞生化学研究室 副主任研究員
18.11.1	岩田 忠久	大学院農学生命科学研究科助教授	理化学研究所高分子化学研究室副主任研究員
18.11.1	梅野 宜崇	生産技術研究所助教授	京都大学大学院工学研究科講師
（昇 任）			
18.10.16	松村 秀一	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
18.10.16	岡部 洋二	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.10.16	村山 英晶	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
18.10.16	澤 進一郎	大学院理学系研究科助教授	大学院理学系研究科助手
18.10.16	山田 利博	大学院農学生命科学研究科附属 演習林教授	大学院農学生命科学研究科附属演習林助教授
18.11.1	宮本 英昭	総合研究博物館助教授	大学院工学系研究科助手
18.11.1	三輪 哲	社会科学研究所附属日本社会研究 情報センター助教授	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター 助手
18.11.1	沖 大幹	生産技術研究所教授	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究 センター助教授
（配 置 換）			
18.11.1	住 明正	サステイナビリティ学連携研究機構 教授	気候システム研究センター教授
18.11.1	福士 謙介	サステイナビリティ学連携研究機構 助教授	環境安全研究センター助教授
18.11.1	大場善次郎	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科附属工学教育推進機構教授
18.11.1	石川 徹	大学院情報学環助教授	空間情報科学研究センター助教授
18.11.1	大海 忍	医科学研究所附属疾患プロテオミク スラボラトリー助教授	医科学研究所助教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
気候システム研究センター・伊藤忠共催 公開講座「変化する気候」	11月29日(水) 14:30~	大講堂(安田講堂)	気候システム研究センター E-mail: webadmin@ccsr.u-tokyo.ac.jp http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/k-koza/index.html
加藤尚武教授公開講演会 「生と死・法と倫理」	11月29日(水) 17:00~	法文2号館1番大教室	大学院人文社会系研究科 21世紀COE研究室 TEL & FAX: 03-5841-3736 E-mail: coe21@l.u-tokyo.ac.jp
医学教育に関する講演会 第1回「State of the Art: Evaluating Teaching in Medical Schools - Why, What and How? -」 ※24ページ参照	11月29日(水) 18:00~	医学部総合中央館333号室 (医学図書館3階)	医学教育国際協力研究センター 清川ゆり子・武田裕子 TEL: 03-5841-3481 E-mail: ykiyokawa-ky@umin.ac.jp
東大・産総研連携 ナノテク・製造技術分野講演会 「健康科学を拓くナノテク製造技術」 ※24ページ参照	11月30日(木) 10:20~	大講堂 (安田講堂)	産業総合研究所先進製造プロセス研究部門ネットワーク MEMS研究グループ E-mail: mems-seminar@m.aist.go.jp TEL: 029-861-7032 (担当:田中)
第109回オルガン演奏会	11月30日(木) 18:30~	教養学部900番教室 (講堂)	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
ワークショップ 「東アジア史における貨幣と信用」	12月1日(金) 13:00~ 12月2日(土) 9:30~	山上会館地階002号室	東洋文化研究所 黒田明伸 E-mail: kuroda@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/schedve.pl?TueOct317:05:332006
第53回小石川植物園市民セミナー 「DNA多型と染色体多型からみた日本列島広域分布種の 多様性: アオキとハナイカダを例に」	12月2日(土) 13:00~	大学院理学系研究科附属植物園 本園(小石川植物園) 柴田記念館	大学院理学系研究科附属植物園 杉山宗隆助教授 TEL: 03-3814-0368
第10回理理学部公開講演会 時間の科学	12月2日(土) 14:00~ (13:30開場)	大講堂 (安田講堂)	大学院理学系研究科庶務係 TEL: 03-5841-7585 E-mail: shomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp http://www.s.u-tokyo.ac.jp/event/public-lecture10/
「知の構造化」 ワークショップ知の構造化ツールは、新しいサイエ ンスを開くのか ※25ページ参照	12月4日(月) 13:30~	理学部1号館(中央棟) 小柴ホール	COEプログラム推進室 TEL: 03-5841-1055 http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/res/061204.pdf
ナノバイオ・インテグレーションシンポジウム	12月4(月) ~7日(木)	本郷キャンパス 安田講堂、小柴ホール	http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBl/e/index.html (英文ページ)
ミハエル・ライテラー 駐日欧州委員会代表部公使講演会 「日本とEU: 共通の外交利益」	12月6日(水) 15:30~	駒場キャンパス18号館4階 コラボレーションルーム1	東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター事務室 E-mail: desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/sympo_e132.html
学術統合化プロジェクト(ヒト)ヒトセミナー(第21回) 「音楽としての音声 ~構造的不变性に基づく人間の 音認知~」 ※26ページ参照	12月8日(金) 16:30~	柏キャンパス 新領域基盤棟基盤情報講義室 2D8	ヒトセミナー担当教員 大武 E-mail: human@ws100h.net http://www.ws100h.net/human/
加藤周一氏講演会老人と学生の未来 「戦争か平和か」	12月8日(金) 18:30~	駒場キャンパス 900番教室	大学院総合文化研究科 小森陽一研究室 FAX: 03-5454-6221
東文研シンポジウム Historical and religious perspectives on early Twelver Shi'ism	12月9日(土) 13:30~	本郷キャンパス 工学部8号館7階736号室	http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 森本一夫 morikazu@ioc.u-tokyo.ac.jp
生物生産工学研究センターシンポジウム 「微生物力を活用したもののつくりに向けて」	12月11日(月) 13:00~	弥生講堂 一条ホール	生物生産工学研究センター 葛山智久 Tel: 03-5841-3073 Fax: 03-5841-8030 E-mail: utkuz@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/
GIS講習会	11月24日(木) 10:00~	柏キャンパス 総合研究棟4階470号室	空間情報科学センター GIS講習会 担当 古橋 http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/training/

行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
写真展「卒業アルバムにみる東京大学医学部と東大病 院のあゆみ 第1部 明治初期から関東大震災まで」 ※27ページ参照	11月6日(月) ~12月4日(月)	医学部附属病院 中央診療棟2の1階及び地下1階 廊下	医学部・医学部附属病院 創立150周年記念事業委員会
2006年度冬学期 「高校生のための金曜特別講座」	10月6日(金) ~1月12日(金)	教養学部11号館 2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/
第34回生研公開講座イブニングセミナー 「環境のための物質・材料工学最前線」	10月6日(金) ~12月22日(金) (11月3日、24日を 除く各金曜日 全 10回18:00~)	生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス)	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL: 03 (5452) 6863, 6866 FAX: 03 (5452) 6071 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展 「一高校長 森巻吉とその時代一向陵の興廃の一遷 にあり」	10月7日(土)~12月3 日(日)10:00~18:00 (入館は17:30まで) 毎週火曜日休館	総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 1階美術博物館展示室	総合文化研究科・教養学部 美術博物館 TEL: 03-5454-6139 FAX: 03-5454-4929 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/bihaku/
特別展示(一般公開) 「知の職人たち 一南葵文庫に見る江戸のモノづく り」	11月1日(水) ~11月30日(木)	総合図書館3階ロビー	附属図書館 情報サービス課 専門員 TEL: 03-5841-2640 E-mail: srv-sen@lib.u-tokyo.ac.jp
特別展示 「東京大学コレクション一写真家上田義彦のマニエリ スム博物誌」展	11月3日(金・祝) ~平成19年1月28日 (日)(休館日もあ りますのでご確認 下さい)	総合研究博物館	ハローダイヤル: 03-5777-8600 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp
第9回東京大学ドイツ文化・社会研修プログラム	平成19年3月7日頃 ~25日頃 (変更の可能性あり)	ミュンヘン、ベルリン	教養学部ドイツ語部会(18号館1116室) 幸田薫教授 E-mail: koda@boz.c.u-tokyo.ac.jp 〒153-8902 目黒区駒場3-8-1 TEL: 03-5454-6346

編集後記

今年も早いもので残すところあと1ヶ月。この号が配布される頃には、銀杏並木も色づいてい
ることでしょう。もしくはもう散ってしまっているのでしょうか。(広報課に「銀杏並木はもう
黄色くなりましたか」という問い合わせがくる頃です。) 学内広報は年内あと2号です。次号
は「学生生活実態調査特集号」の予定です。(と)

Contents

特集

- 02 第5回東京大学ホームカミングデイ開催!
- 04 平成18年度第1回東京大学総長賞

ニュース

- 06 秋の紫綬褒章受章

一般ニュース

- 06 総務部
東京大学創立130周年記念事業シンボルマークの制定について
- 07 学生部
知の創造的摩擦プロジェクト第3回交流会「先輩と語る、自分を見つめる」を開催
- 08 総務部・施設部
本部棟1階フロアがリニューアルしました!
- 09 財務部
ローソン龍岡門店がオープンしました!
- 09 環境安全本部
記者発表「東京大学職員の中皮腫発症について」

部局ニュース

- 10 空間情報科学研究センター
年次シンポジウム～CSISDAYS2006～盛会のうちに閉幕
- 11 大学院新領域創成科学研究科
柏キャンパスに「さつき」の植樹
- 12 生産技術研究所
平成18年度外国人研究者・留学生との懇談会開催
- 12 宇宙線研究所
附属神岡宇宙素粒子研究施設にて、地下観測施設の消防総合訓練を実施
- 13 柏キャンパスリエゾン室
柏キャンパス一般公開開催
- 13 生産技術研究所
ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構が発足 記念講演会が開催される
- 14 分子細胞生物学研究所
動物慰霊祭
- 15 大学院医学系研究科・医学部
医学部解剖体慰霊祭が行われる
- 15 大学院教育学研究科・教育学部
附属中等教育学校で海洋研究所の特別講義「ウナギ大回遊の謎」を行う
- 16 医科学研究所
動物慰霊祭行われる
- 16 地震研究所
新棟披露記念式典を挙げる

キャンパスニュース

- 17 学生部
東京大学運動会ヨット部クルーザー班、2年ぶり3度目の世界選手権出場を決める

コラム

- 18 さすてなTimes Vol.6
- 19 (新連載)バリアフリーの現場から 第1回
- 20 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.7
- 21 Flags運動部紹介 No.25
- 22 調達本部です 第19回
- 22 コミュニケーションセンターだより No.26
- 23 龍岡門横丁断 第8回
- 23 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第4回

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 24 医学教育国際協力研究センター
医学教育に関する講演会のご案内
- 24 大学院工学系研究科・工学部
東大-産総研連携 ナノテク・製造技術分野講演会「健康科学を拓くナノテク製造技術」
- 25 COEプログラム推進室
「知の構造化」ワークショップ
- 26 学術統合化プロジェクト(ヒト)
ヒトセミナー(第21回) 音楽としての音声

お知らせ

- 27 医学部附属病院
卒業アルバムにみる東京大学医学部と東大病院のあゆみ第I部 明治初期から関東大震災まで(写真展開催)
- 27 学生部
平成19年度入学者募集要項配付

29 人事異動

30 EVENT LIST

淡青評論

- 32 出前講義の勧め

◆ 表紙写真 ◆

ホームカミングデイ・歓迎式典の様子
(2ページに関連記事)



七徳堂鬼瓦

出前講義の勧め

定年近くなると色々なことを頼まれる。最後だからまあいいかと、つい二つ返事で引き受けてしまう。この夏は小学4～6年生とその父母に講義と実験指導を頼まれた。ある食品企業が企画したもので、親子24組を招待し、水族館を見学したあと、魚のアミノ酸やタンパク質についての講義を聴き、食品中のアミノ酸を検出する実験をやってみようというものである。250組もの申し込みがあったそうである。これは今はやりの食育の企業版であるが、親子という点で意義が深い。今多くの食品企業が食育に興味をもっているのである。

父母も子どもたちも大変熱心であった。講義ではかなり専門用語も使わざるを得なかったが、よく理解してくれたようである。予め学習指導要領をネットで閲覧し、何を習っているのかを調べたが、小学4年生ではパーセントも教わっていない。スライドと話の内容をかなり工夫する必要があった。しかし、子どもたちの理解力は優れていた。「タンパク質がたった20種類のアミノ酸でできていることがわかってよかった。」などという感想もあった。

子どもたちの可能性は無限である。興味の対象も果てしなく広がっていく。多感な子どもたちに研究の最前線の話をやさしく講義することは、理科ばなれや本ばなれが憂慮されている今、大きな意義があるのではなかろうか。農学生命科学研究科では数年前から、近くの根津小学校の生徒さんに「一日東大生」ということで、大教室で授業を行っており、大変好評のようである。「大学生よりしっかり聞いているよ。」という感想もあると聞く。東京大学に招待するのもいいが、いっそこちらから出前講義をやっては如何であろうか。

本学の教員は2,500人にも達する。全員がテーマを出せば、あらゆる分野の研究の最前線がほとんど網羅できるであろう。それをホームページに掲載し、全国の小・中学校や高校に発信すればいい。教員側にもメリットがある。講義スキルの向上が望めるからである。教員の誰にもできるアウトリーチ活動としてきわめて有効ではなかろうか。

阿部宏喜（大学院農学生命科学研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1347 2006年11月22日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>